



第二次調査は「古代蓮の里」公園整備予定地について行なわれ、腐植土層上に

埼玉・小針北遺跡

こぱりきた

- 1 所在地 埼玉県行田市小針
- 2 調査期間 第一次調査 一九九三年（平5）一月～一九九四年三月
- 3 発掘機関 行田市教育委員会
- 4 調査担当者 門脇伸一
- 5 遺跡の種類 沼跡・水路跡
- 6 遺跡の年代 繩文時代～近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

小針北遺跡は行田市の北東、小針沼と呼ばれる沼地の北側の低台地上に立地する。小針沼はかつては葦やマコモの繁茂する沼地であったが、昭和初期に干拓が行なわれ、現在では沼地全体が水田となっている。

8 木簡の釈文・内容

(1) 

(133)×20×1 019

頂部は三角状に削られており、下端は欠損している。形状からみて柿経もしくは卒塔婆と思われる。文字は判読困難であるが、梵字の可能性が高い。

9 関係文献

行田市教育委員会『行田市文化財年報 平成五年度』（一九九五年）同『小針北遺跡（二次）』（2001年）

（門脇伸一／行田市郷土博物館）



灌漑水路と思われる溝が確認され、また沼地の腐植土の上層より縄文時代から近世にわたる遺物がばらまかれたような状態で出土した。これらはほぼ同一の層位から検出されたことや、集中して出土する傾向がみられることから、近世以降に何らかの理由でまとめて廃棄されたものと考えられる。今回報告する木簡は、その中に含まれていたものである。このほか、家形埴輪や円筒埴輪の出土数が多く、近隣の古墳に立てられていたものが廃棄された可能性も考えられる。